

平成31年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①次期新学習指導要領の改訂に向けたカリキュラムの研究・編成に取り組む。</p> <p>②生徒の主体的に学ぶ意欲を引き出すとともに確かな学力を育む。</p>	<p>①新カリキュラムの編成に取り組む。</p> <p>②生徒が主体的に学ぶ授業研究を進める。</p>	<p>①カリキュラム検討委員会を中心に、各教科と連絡を密にして、本校のコンセプトをまとめ、各学年における科目配置、単位数をまとめる。</p> <p>②授業観察期間、基本研修、研究授業等を通じて、教員相互の授業研究を進め、研究成果を職員で共有し、授業改善を進める。</p>	<p>①新学習指導要領の研究から新カリキュラムに対する理解が深まり、本校のコンセプトが定まったか。また、各学年における科目配置や単位数の検討が進んだか。</p> <p>②生徒による授業評価における、生徒の主体的な取組に関する項目や、家庭学習時間などに関する調査において評価が向上したか。また、夏期講習や通年補習への参加数が増加したか。</p>	<p>①カリキュラム検討委員会を組織し、本校のグランドデザインをもとに厚木東スタンダードという形に本校のコンセプトをまとめた。また、各学年における科目配置、単位数の大枠をまとめた。</p> <p>②授業以外で主体的に学習に取り組む生徒は全体で5～6割程度にとどまっている。夏期講習は全体で昨年と同数の28講座設定できた。実受講者数は増えたが、べ受講者数は少し減った。</p>	<p>①新たなカリキュラムの大枠は決まったが、細部について検討すべきことが残っている。また、各教科・科目の指導計画を進める必要がある。</p> <p>②授業への意欲的な取組という点では評価できるが、授業以外の場面で主体的に学習活動へと向けさせる手立ての研究を進める必要がある。また、夏期講習についてはさらに受講者を増やす工夫が必要である。</p>	<p>①厚木東スタンダードというコンセプトをまとめた点はとても良い。内外にしっかりとアピールしていただきたい。</p> <p>②教員相互の研修の充実が図られて授業改善が進められたのは良いことである。生徒自身が学ぶ意欲を持ち、仲間や先生との対話を通して広く学び考える授業が展開されることを期待する。</p>	<p>①厚木東スタンダードという本校の目指すコンセプトをまとめあげた。それに沿って生徒に身に付けさせたい力を検討し、新たなカリキュラム案をまとめた。</p> <p>②教員相互の授業参観や近隣への公開授業、研究授業を通して授業改善を進めた。また昨年度、活用を進めていたグループクラスルームについて、臨時休業で全校での使用の体制が整った。これをさらに主体的な学びに活かしたい。</p>	<p>①新カリキュラム案をさらに検討して完成させていく。また、再編統合に向けてのカリキュラムの検討を進める。</p> <p>②教員相互の授業見学や研究授業を通して、さらに授業研究を続ける。異なる教科間での意見交換を行い、生徒の主体性を育む授業について職員間で認識を共有する。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>①部活動や生徒会行事の活性化を通して生徒の主体性を育む。</p> <p>②生徒個々に応じた組織的な支援体制を確立させるとともに充実させる。</p>	<p>①行事、部活動、委員会活動など多様な生徒の活動を生徒会本部役員の生徒が主体となって取りまとめさせ、各活動が充実するような職員の支援体制を整える。</p> <p>②欠席しがちな生徒や気になる生徒の状況や課題を早期に把握し組織的に対応し支援体制の確立を図る。また、いじめは絶対許さないというメッセージを機会あるごとに周知し、いじめの未然防止を図る。</p>	<p>①生徒会本部役員生徒を中心に各委員長、部長の会合を定期的実施し、生徒の多様な活動を定期的振返り、情報共有する機会を充実させる。行事では各生徒が主体的に計画を立て、取り組むよう指導する。</p> <p>②欠席状況や生徒の様子を学年会等で共有し必要に応じてスクールカウンセラーを活用したりケース会議を開催するなど個々に応じた支援を組織的に行う。また、いじめの防止について、HRや学年集会等で周知するとともに、個人面談やアンケートを通していじめの早期発見・早期対応に努める。</p>	<p>①各委員長、部長等による生徒を中心とした生徒会のカリキュラムマネジメントが進んだか。行事アンケートでは主体的な取組に対する肯定的な回答が増えたか。</p> <p>②支援が必要な生徒について教員間で情報共有し組織的に支援できたか。また、いじめ防止の取組について生徒や保護者に十分周知できたか。そして、いじめのアンケート結果に応じて迅速・適切な対応ができたか。</p>	<p>①委員長、部長は定期的に会合を実施し、振り返りや情報共有を行った。全校生徒については行事アンケートでの主体的な取組に対する肯定的な回答が減少した。</p> <p>②スクールカウンセラーの来校が毎週になったことに伴い生徒、保護者ともに相談件数が昨年度より増え、組織的・継続的な支援ができた。いじめのアンケートを学期に1回実施し適切に対応した。</p>	<p>①行事アンケートにおける生徒の主体的な取組について、肯定的な回答が激減しており、生徒のあり様が変わってきている。従来の生徒に委任する指導方法から見直しが必要である。今後、効果的な指導助言体制や役員以外の生徒も主体的に取り組める仕組みを職員全体で進める。</p> <p>②SC面談が多く入り教育相談の定期的な打合せが十分に確保できない時があった。そこで、必要に応じて、関係者で柔軟にショート打合せを実施する。アンケート以外からの相談もを通して生徒の様子をみていくとともに教員研修を継続していく。また、相談窓口の案内を常時掲示していく。</p>	<p>①主体的な取組に対して肯定的な回答が減少しているが、個人の好みの多様化や価値観の相違などの影響が考えられる。今後、意識調査や教育課程との連携などきめ細かい支援が必要であろう。</p> <p>②引き続き生徒のニーズに合わせて対応していかるとよい。支援の必要な生徒に対して、先生方からも積極的に声をかけ話をさせていただきたい。学習、学校生活上の悩みなども実施してはどうか。</p>	<p>①生徒会本部役員生徒がリーダーシップを発揮し、生徒が主体的に生徒会組織を改善していく様子が見られた。しかし、様々な活動で個々の生徒の意識とリーダーとなる生徒の意識との間にギャップがあり全体的な自己肯定感が低下している。</p> <p>②欠席しがちな生徒や気になる生徒について学年やグループで情報共有し組織的に対応した。SC面談が増えた一方、情報共有が遅くなったケースもあった。早い時期から全教職員で相談体制の目的と内容を確認し、生徒の状況把握に努め、生徒支援に向けて早期対応していくことが大切である。いじめに関するアンケートを定期的実施した。</p>	<p>①一部の生徒が決めたルールや、行事運営を生徒個々の活動につなげる。少数の意見や全体を見据えた計画を立てさせ、生徒どうしの議論や情報伝達の方法について様々な方法を指導する。</p> <p>②4月当初より全教職員に教育相談体制について周知し共通意識を持つ。また、学年担当者を中心となって支援が必要な生徒の情報共有を行い、SC面談やケース会議を行うなど、早期対応を心掛ける。いじめに関するアンケートの内容を検討しながら今後も定期的実施していく。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	3年間を通じた体系的なキャリア教育を通して、進路意識の向上を図り、主体的に学ぶ意欲、豊かな人間性および社会性を育み、自己実現を支援する。	①生徒一人ひとりが、自己理解を深め、将来を見据えて行動できるよう進路意識の向上を図る。 ②自己にあった入試方法を選択させ、生徒の第一志望が達成できるようサポートする。	①総合的な学習(探究)の時間の中心テーマを「キャリア探究」と定め、生徒が自己の生き方や在り方、将来について考えられる主体的学習を計画的に実施する。 ②新入試への対応を含め、様々な情報提供を行う。また模擬試験やインターンシップを有効活用できるよう充実を図る。面談等を活用し的確なアドバイスや支援を行う。	①生徒が自己の生き方や在り方を考え、進路に向けての具体的な行動をとり、進路意識を図り、目標を明確に定められたか。 ②適切な情報提供を行い、生徒が自己にあった入試方法を選択し、生徒の第一志望を達成させることができたか。また模擬試験やインターンシップの参加率が昨年度より増えたか。	①総合的な学習(探究)の時間を中心に進路講話、体験活動等、計画的にキャリア学習を行った。AOや推薦を希望する生徒が増加傾向にあり、面接指導、小論文指導を学年・教科と連携して行った。 ②様々な方法で進路に関する情報を入手し必要に応じて生徒や保護者に情報を提供できた。一般受験を避ける生徒が増加傾向にあり、模擬試験の参加率は減少した。一般受験の生徒は苦戦する状況にあった。	①進路に向けての生徒のやる気を引き出すことはできているが、継続的、主体的な行動にはまだ不十分である。総合学習の内容を精選するとともに、学年・教科と連携し指導を行っていく必要がある。 ②3、4年前と入試状況が激変し、進路に関して生徒には難しい判断が迫られる時期になっている。また来年度から新入試制度がはじまりきちんとした対策をとっていく必要がある。情報を入手し、早い段階から進路に向けての行動がとれるよう、指導を計画実施していく必要がある。	①受験方法として推薦やAOの希望者が増え、より多様化することが想定される。対応するため教員の研修等も有効である。総合学習でキャリア教育に力点を置いている点は大変よい。 ②新入試に向けての準備、対応を今後も継続するとともに、2022年度には成人年齢も18歳になる予定である。精神面の成長を図るべく、主体的に社会に参画できる力を育ててほしい。	①総合的な探究の時間を計画的に配置し、自己の生き方や在り方について考え、進路意識の向上を図ることができた。目標に対して、具体的にどう行動していくのかを考えさせ、実行させていくことが課題である。 ②昨今の入試状況の変化や、新入試に向けての情報収集を行い、必要な情報を講演会や進路通信等で生徒や保護者に提供できた。来年度から総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜と入試制度が変わる。生徒が早めに目標を定め、進路に向けての行動がとれるような指導が今後も必要である。	①探究的な学習を計画的に配置し、自己や社会、職業、地域について考えさせるとともに、各教科が連携し情報交換を密に行い、生徒が主体的に調べ、行動できるようサポートしていく。 ②3年生は目の前に迫った入試対策を、進路グループと学年、教科が連携して指導する。また、入学から卒業までを見通して進路計画を立て、生徒が準備を十分に行い、目標に向けての行動をとれるようサポートしていく。
4	地域等との協働	①地域と連携し、地域から信頼され、地域に開かれた学校づくりに取り組む。 ②地域貢献等を通して、生徒の自己肯定感、自己有用感を高める。	①王子地区自治会と協働し、防災体制の確立に努める。 ②公民館と連携し、生徒との活躍の場として活用すると共に、地域の自治活動にも積極的に協力する。	①生徒の防災委員を中心に王子地区防災訓練(避難所開設訓練)に積極的に参加し、避難所開設の体制を整える。 ②公民館を通じて生徒活動の情報発信を行う。また、自治会等との連携を深め協働活動の件数を増やす。	①地区防災訓練に積極的に参加できたか。避難所開設の体制を構築できたか。 ②生徒は活動を地域に発信できたか。自治会等への協力件数は増えたか。	①避難所開設訓練の運営について地域自治会と厚木商業高校と検討を重ね、11月に避難所開設訓練を実施した。 ②今年度は公民館との連携事業を新規に開拓した。回覧板を活用した地域への情報発信が定着した。	①各所で災害が頻発する中、実際にそのようなことが起こった場合、速やかな対応ができるか。その対応として、地域自治会、関連機関との連携を深めることが必要である。 ②文化部の発表や地域ボランティアの活動を充実させる。また、地域と協働して行える取り組みを増やしていく。	①地域に密着した取り組みとして避難所開設訓練は、生徒の社会性の育成のみならず、地域の本校に対する理解を深める機会でもあり、継続的に進めていきたい。 ②自治会への「回覧」による生徒会新聞等の広報に親しみを感じる。一部の生徒だけでなく多くの生徒に参加の機会を増やしてほしい。	①避難所開設訓練は、地域の方々と厚木商業高校の職員・生徒と本校の職員・生徒の共働のなかで、信頼関係が築くことができた。ただ、避難所を開設する場合、夜間、休日の対応を検討しなければならない。 ②公民館との連携事業はコミュニティスクールとして地域、生徒の双方の活動を活性化し充実した取組であった。生徒の成長や進路に活かせるよう実績の整理が必要である。	①夜間、休日に避難所を開設することも想定し、市役所等の連携を深める。 ②今後も生徒会が自治会との連携を継続できるよう支援する。多くの生徒が積極的に参加できるよう声かけや募集を行う。参加した生徒が地域連携活動を振り返る機会を持てるよう指導、支援する。
5	学校管理 学校運営	生徒が安全・安心に、また快適に過ごせるよう教育環境の整備を進める。	施設・設備の老朽箇所、危険箇所の状況を把握し、その改善に努め、安心・安全・快適な教育環境を整える。	生徒の整美委員と協働し、施設・設備の老朽箇所、危険箇所のデータベースを作成し、生徒の意見を取り入れながら最適な教育環境づくりを進める。	データベースを作成し、施設の改善及び教育環境の整備ができたか。	生徒は備品や施設を大切に使用しており、美化意識を持って積極的に清掃活動に取り組んだ。また、整美委員が4・5月に校内要修繕箇所を調査、検討し、廊下の掲示板クロスの張替えを行った。	学校施設の老朽化が目立ち、特にトイレの悪臭、教室のPタイルのはがれは、早急に修繕する必要がある。事務と密接に連絡を取り対応したい。	学校施設の老朽化は、優先順位をつけてきちんと対応していただきたい。トイレの改善は急ぎの課題である。	学校施設の修繕箇所のデータベースを作成し、順次修繕することができた。ただ、老朽化した施設が多く、これからも、修繕を行う必要がある。	事務担当と連絡を取りながら、優先順位の高い箇所から、修繕をしていきたい。